

[普及事項]

新技術名：酒造適性に優れる多収の水稻品種「ぎんさん」の目標収量及び収量構成要素等の策定
(平成23～29年)

研究機関名 農業試験場 作物部 作物栽培担当
担 当 者 柴田智・佐藤健介

[要約]

「ぎんさん」の目標収量は、66kg/aとする。この場合の収量構成要素は、 m^2 当たり籾数34.0 (×千粒)、穂数460～470本/ m^2 、登熟歩合80%以上、千粒重24.5gである。目標とする玄米タンパク質含有率を7.3%以下とした場合、穂揃い期の葉緑素計値は36未満とする必要がある。また、この時の稈長は73cm以下である。

[普及対象範囲]

「ぎんさん」作付け地帯（秋田県内平坦部一円）

[ねらい]

秋田県で育成された水稻品種「ぎんさん」は、高品質で低価格の純米酒用原料米として、平成27年に品種登録され本格的な作付けが開始された。そこで、「ぎんさん」の目標収量及び収量構成要素等を策定し、高品質・安定生産のための資料とする。

[技術の内容・特徴]

- 1 「ぎんさん」の目標収量は、66kg/aとする（あきたこまちの15%増：57kg/a×115%、H25実用化より）。この場合の目標収量構成要素は、 m^2 当たり籾数34.0 (×千粒)、穂数460～470本/ m^2 、登熟歩合80%以上、千粒重24.5gである（表1）。
- 2 m^2 当たり籾数は、整粒率と負の相関、玄米タンパク質含有率と正の相関が高く、整粒率70%以上及び玄米タンパク質含有率7.3%以下の時、34.0 (×千粒) が上限となる（図1, 2）。
- 3 穂数は、 m^2 当たり籾数と正の相関が高く、 m^2 当たり籾数が34.0 (×千粒) の時、穂数は460～470本/ m^2 となる（図3）。整粒率は、登熟歩合と正の相関が高く、整粒率が70%以上の時、登熟歩合は80%以上必要となる（図4）。
- 4 玄米タンパク質含有率は、穂揃い期の葉緑素計値と正の相関が高く、玄米タンパク質含有率7.3%以下の時、葉緑素計値36が上限となる（図5）。また、倒伏程度が大きくなると玄米タンパク質含有率が高くなることから、稈長を73cm以下にする（図6）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 水稻奨励品種決定基本調査（平成23～28年）、施肥反応試験（平成29年）のデータを基に策定した（基肥量(N-P₂O₅-K₂O)各0.6～1.2kg/a、追肥窒素量0～0.6kg/a)。
- 2 今回は、玄米タンパク質含有率の目標を暫定的に7.3%以下にしたので、今後目標とする玄米タンパク質含有率を明らかにするとともに地域毎に生育調査データを蓄積して使用することが望ましい。

[具体的なデータ等]

表1 目標収量及び収量構成要素

	玄米重 kg/a	穂数 本/m ²	一穂粒数 粒	m ² 当たり 粒数(千)	登熟歩合 %	千粒重 g
ぎんさん	66.0	460~470	72~74	34.0	80以上	24.5
(参考) あきたこまち	57.4	440	69	30.4	88	21.5

注) あきたこまちは、稲作指導指針の中央地区の数字

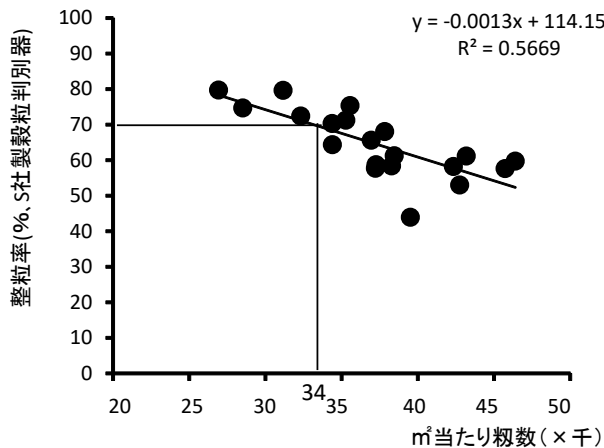


図1 粒数と整粒率の関係

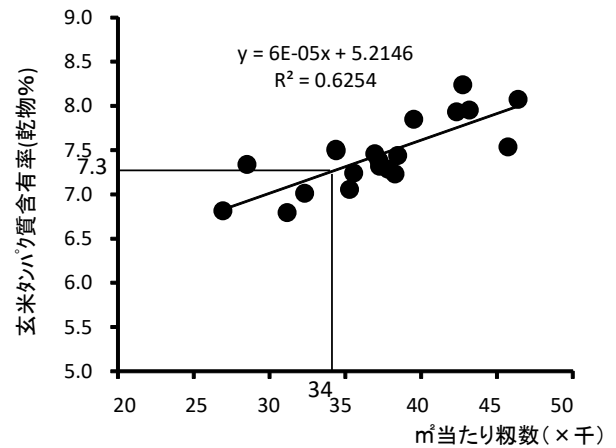


図2 粒数と玄米タンパク質含有率の関係

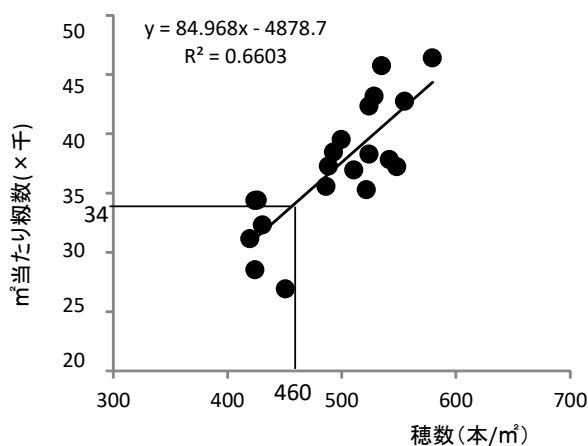


図3 穂数と粒数の関係

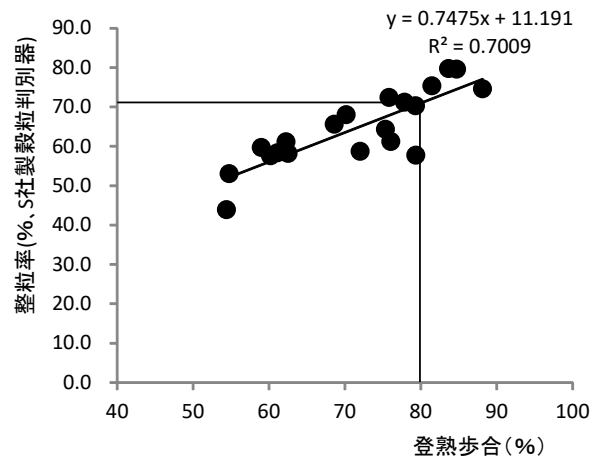


図4 登熟歩合と品質の関係

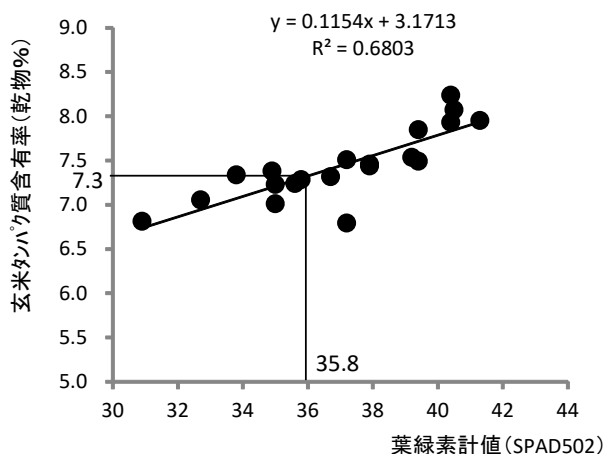


図5 葉色と玄米タンパク質含有率
(穂揃い期)

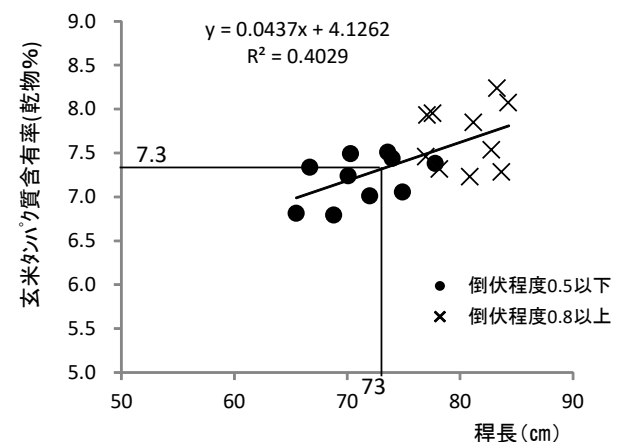


図6 稈長と玄米タンパク質含有率、
倒伏の関係

[発表論文等] なし